

避難の方法

避難は学校やコミュニティセンターといった避難場所への移動だけではありません。住んでいる地域やそのときの状況、人によって方法は異なります。普段からどう行動するか決めておきましょう

■立退き避難

- ・鹿沼市が指定した避難場所
- ・安全な親戚、知人宅
- ・安全なホテル、旅館
(通常の宿泊料が必要です。ハザードマップで安全かどうかを確認し、予約しましょう)



■屋内安全確保

ハザードマップで自宅にいても問題ないか確認する必要があります。

- ・警戒区域に入っていないこと
- ・浸水深より居室が高いこと
- ・水が引くまで我慢でき、水や食料などの備えが十分にあること



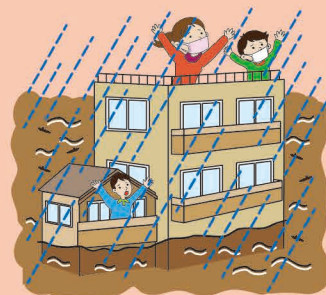
ここなら安全！



■緊急安全確保

「立退き避難」を行う必要がある居住者等が、適切なタイミングで避難しなかった等により避難が遅れたために、災害が発生・切迫し、立退き避難を安全にできない状況に至ってしまった場合に、命の危険から身の安全を可能な限り確保することです。

その時点でいる場所よりも相対的に安全である場所へ直ちに移動することが「緊急安全確保」です。



- ・自宅の少しでも高い場所に移動
- ・近隣の少しでも高い建物に移動
- ・がけから離れた部屋に移動

避難生活について

避難所では生活ルールを守りましょう

- 起床や就寝の時間、トイレの使い方、ゴミの分別、喫煙場所、ペット同伴の可否など避難所のルールを守りましょう。
- ほかの人の居住スペースに立ち入ったり、のぞいたり、大声をあげたりするのはマナー違反です。

役割分担して運営に参加しましょう

- 避難者もできる範囲で、受付や清掃、炊き出し、物資の配布など役割分担しましょう。
- 皆さんで助け合いながら避難所運営に参加しましょう。



健康や衛生の管理に気を付けましょう

- エコノミークラス症候群を予防するために、適度な運動と水分補給をしましょう。
- 食中毒の予防のため、手洗い、消毒、賞味・消費期限の確認をしましょう。



ペットの避難

～飼い主が備えておくべきこと～

ペットの同行避難は各避難所に定められたルールに従いましょう。避難者がいるスペースから離れ、決められた場所につないだり、持参したケージ(おり)に入れたりするなど、飼い主が責任を持って世話をしましょう。

■災害時の心構え

避難所には、動物が苦手な人やアレルギーを持っている人などさまざまな人がいるので、周りの人に配慮しましょう。



■ペットのしつけと健康管理

普段からケージやキャリーバッグ等に慣れさせておき、決められた場所で排泄ができるようにしておきましょう。予防接種や寄生虫の駆除をしておきましょう。

■ペットの避難用具・備蓄品の用意

食料、リードやキャリーバッグ等、避難先での飼育に必要なものをあらかじめ用意しておき、持参しましょう。ペット用の避難物資が届くまでには時間がかかる場合があるので、7日分は用意しておきましょう。



自宅にとどまった場合の備え

自宅で避難生活を送る場合、まずは **水・食料・トイレ** の備えが必要です。

水 飲料水の備え

1人1日3リットルを目安に最低3日分、できれば7日分用意しておきましょう

必要な備蓄量を計算してみましょう

$$3 \text{ リットル} \times \boxed{\text{家族の人数}} \times 7 \text{ 日分} = \boxed{\text{必要な量}} \text{ リットル}$$

食料 食料の備え (日常備蓄※)



日常の備え

- (1) 食材を少し多めに買い置きする。併せてレトルト食品や缶詰なども買い置きしておく(7日分以上)
- (2) レトルト食品や缶詰は古いものから定期的に食べる

災害時

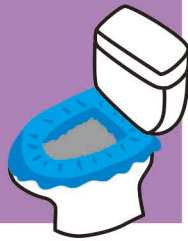
- (1) 停電した場合は冷蔵庫にある食料をクーラーボックスに移す
- (2) 傷みやすいもの、要冷蔵のものなどを優先して食べる
- (3) 普段から備えておいたレトルト食品や缶詰などを食べる



※常に一定量の食品を家に備蓄しておく方法です。普段から少し多めに食品を購入して備えておき、古いものから食べ、食べた分だけまた買い足します。備蓄品を無駄にせず、災害時も普段から食べた食品を非常食として食べることができます。

トイレ

災害時のトイレ対策



携帯トイレは1人1日5枚程度使うと想定して7日分ほど用意

$$5 \text{ 枚} \times \boxed{\text{家族の人数}} \times 7 \text{ 日分} = \boxed{\text{必要な数}} \text{ 枚}$$

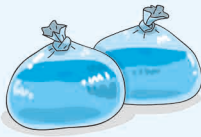
家財被害対策

家庭にある物を使って家屋への浸水や流入を防ぐ方法(簡易水防工法)は、水深が浅い段階では有効です。

浸水を防ぐ!

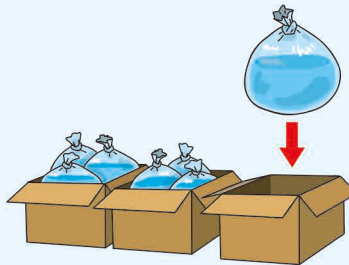
■ゴミ袋による簡易水のう

ゴミ袋などの大きめ(45リットル程度)のビニール袋を二重、三重に重ね、半分(20リットル程度)ぐらいの水を入れ、口をきつくしばります。



■簡易水のうと段ボール箱等との併用

簡易水のうを段ボール箱に入れて連結させれば強度が増し、水のうを積み重ねることもできます。



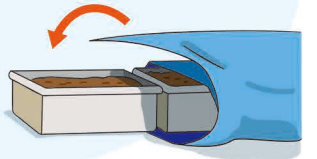
■止水板

長い板、鉄板、畳、テーブル、ロッカーなどを出入口に設置します。



■プランター

土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込んで使用します。



簡易水のうで逆流防止

豪雨のときなど、急激な水位の上昇により下水管が満水の状態になると、下水が逆流し、トイレや風呂場、洗濯機の排水口などから、水が吹き出ることがあります。そのようなときは、ビニール袋に水を入れた「簡易水のう」を置くと、逆流を抑える効果があります。

